

平成21年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立篠井小学校

平成21年度に実施した「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、保護者や地域の皆様に御理解と御協力をいただきながら、学習指導の工夫・改善に生かしていくため、以下の通り公表します。

なお、本市の「学習内容定着度調査」及び「学習と生活についてのアンケート(意識調査)」に本調査を加えた、結果の分析及び指導の工夫・改善のための具体策を平成21年11月を目途に公表します。

I 調査の概要

1 目的

- ア 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図り、併せて児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげる。

2 調査期日

平成21年4月21日(火)

3 調査対象

第6学年

4 調査内容

- (1) 教科に関する調査
- ① 国語A, 算数A (主として「知識」に関する問題)
 - ② 国語B, 算数B (主として「活用」に関する問題)
- (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
- ① 児童に対する調査
 - ② 学校に対する調査

5 本校の参加状況

児童数

- ① 国語A 36 人, 国語B 36 人
- ② 算数A 36 人, 算数B 36 人

6 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示し、指導の工夫・改善に生かすために分類・区別の平均正答率を公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「全体的な傾向」、「分類・区分別の傾向と課題」、「指導の工夫・改善の方向性」などの分析を併せて記載した。

※用語の説明 ○平均正答率…平均正答数を百分率で表示。

- ・学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童数を全体の児童数で割った値の百分率。
- ・平均正答数は、児童の正答数の平均。

Ⅱ 調査結果の概要

【国語】

《全体的な傾向》

本校では、国語A・Bとも平均正答率が栃木県・全国の平均正答率を上回っていた。しかし、国語Aの「話すこと・聞くこと」では、県や全国の平均を大きく下回っていた。

《分類・区分別集計結果》

(1) 国語A(設問数18問)

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			本校	栃木県	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	1	55.6	67.7	68
	書くこと	4	91.7	86.2	85.4
	読むこと	2	73.6	69.5	68.7
	言語事項	12	64.4	62.3	64.2
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	1	55.6	67.7	68
	話す・聞く能力	1	55.6	67.7	68
	書く能力	4	91.7	86.2	85.4
	読む能力	2	73.6	69.5	68.7
	言語についての知識・理解・技能	12	64.4	62.3	64.2
問題形式	選択式	5	85.6	81.1	80.1
	短答式	12	66.4	63.8	65.9
	記述式	1	55.6	67.7	68

※1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

(2) 国語B(設問数10問)

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			本校	栃木県	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	5	68.3	60.5	61.3
	書くこと	2	13.9	13.7	14.5
	読むこと	3	54.6	56.4	56.5
	言語事項	2	68.1	59.1	59.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	6	48.1	45.5	46.0
	話す・聞く能力	5	68.3	60.5	61.3
	書く能力	2	13.9	13.7	14.5
	読む能力	3	54.6	56.4	56.5
	言語についての知識・理解・技能	2	68.1	59.1	59.7
問題形式	選択式	2	72.2	64.3	65.8
	短答式	2	50.0	48.8	48.7
	記述式	6	48.1	45.5	46.0

※1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

【話すこと・聞くこと】

- A 領域の平均正答率が55.6%で県や全国の平均正答率より10ポイント以上下回り、司会の進め方のよいところを説明したり、司会の役割や動きをとらえて話し合いを計画的に進めたりする能力が十分とは言えない。
- B 領域の平均正答率が68.3%で県や全国の平均正答率を7～8ポイント上回っている。特に話し相手の立場や意図をとらえて聞いたり、目的や意図が伝わるように必要な情報を取り出ししたりする設問の正答率が高かった。

【書くこと】

- A 領域の平均正答率が91.7%で県や全国の平均正答率を5～6ポイント上回っている。
- A はがきの表書きに必要な事項の順序を考えて書く設問では、県や全国の平均正答率を約20ポイント上回っている。
- A 文章の内容に合わせて、小見出しを書く設問においても90%を超える正答率があり、しっかりと見についていることが分かる。
- B 領域の平均正答率が13.9%で県の平均正答率は上回るものの、全国よりは若干下回る結果となった。
- B 調べる内容を見通して、必要な事項を整理する設問の正答率が11.1%（全国的に低い傾向にあるが）と低く、国語Bの中で最も低い正答率となっている。

【読むこと】

- A 領域の平均正答率が73.6%で県や全国の平均正答率を4～5ポイント上回っている。
- A 段落の内容を的確にとらえる設問では、86.1%と正答率が高く、県や全国を大きく上回っている。
- B 領域の平均正答率が54.6%で県や全国の平均正答率を2ポイント弱下回る。
- B 目的や意図に応じて、自分の考えをまとめる設問において課題があり、県や全国の正答率を12ポイント下回っている。

【言語事項】

- A 領域の平均正答率が64.4%で県や全国の平均正答率を若干上回っている。
- A 既習の漢字の平均正答率は県は全国の平均正答率を上回るものと下回るものがあるが、ほぼ身につけている。
- A ローマ字に関しては、漢字の設問ほど正答率が高くはないが、県や全国の正答率をすべての問題で上回っている。
- B 領域の平均正答率が68.1%で県や全国の平均正答率を10ポイント近く上回っている。

【その他】

- AB いずれの問題形式においても県や全国の平均正答率を上回るものが多く、学習したことがある程度定着していることが分かる。

《国語に関する質問紙調査の状況》

【児童質問紙】

- 7割を超える児童が国語の勉強が大切だと答えている。
- 読書が好きだと肯定的に答える児童が8割程度いる。
- 授業がわかると肯定的に答えた児童の割合は、8割を超えている。
- 約7割の児童が国語の授業で学習したことが将来社会に出たときに役に立つと思っている。
- 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしていると答えた児童の割合が全国平均や栃木県の平均を上回っている。
- 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていると答えた児童の割合が全国平均や栃木県の平均を上回っている。
- 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいると答えた児童は、全国平均や栃木県の平均を大きく上回っている。
- 国語の勉強が好きと答えた児童の割合は全国と県の平均を下回った。

《国語における指導の工夫・改善の方向性》

【話すこと・聞くこと】

- ・司会の進め方のよいところを説明したり、司会の役割や働きをとらえて話し合いを計画的に進めたりする能力を高められるように、話し合い・インタビュー・スピーチ・討論会など、さまざまな活動を児童に多く体験させる。
- ・スピーチメモを活用してスピーチの内容に即した組み立てを工夫する学習を取り入れることで話したり聞いたりする能力をさらに向上させる。

【書くこと】

- ・調べる内容を見通して、必要な事項を整理する能力を高めるために、説明文にふれたり、実際にメモなどに整理したりする機会を増やしていく。
- ・目的や意図に応じて、事象や意見などを関係づけながら書く力を向上させるために、読んだり、聞いたりして分かったことや自分の考えを明確に書くような学習をこれまで以上に取り入れていく。

【読むこと】

- ・物語文では、文学的な文章の表現の工夫をとらえられるように、名作や表現豊かな文章を読み、その表現のすばらしさについて話し合うような機会を通じて、読む力や感じる心を向上させるようにする。
- ・身近にある資料やパンフレット、お知らせなどから目的に応じて必要な情報を取り出したり、整理したりする学習を取り入れ、情報を読み取ったり、自分の考えを持ったり、自分の考えをまとめたりする力を向上させるようにする。

【言語事項】

- ・文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く（一文を二文に分けて書く）ような学習を多く取り入れ、言語についての知識・理解や技能面での能力を向上させるようにする。
- ・これまで行ってきた漢字練習や漢字テスト等を今後も実施しながら、正しい漢字の使い方が身に付くようにする。

【その他】

- ・児童の学力面での個人差が大きくなっている傾向がみられたので、個別に指導を要する児童への指導を工夫する。

【算数】

《全体的な傾向》

本校では、算数Aの学習指導要領の領域すべてにおいて、栃木県や全国の平均正答率より高い傾向が見られた。一方、算数Bでは、「数と計算」「量と測定」「図形」の領域で、栃木県や全国の平均正答率を下回った。

《分類・区分別集計結果》

(1)算数A(設問数18問)

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			本校	栃木県	全国
学習指導要領の領域	数と計算	9	84.9	83.2	82.8
	量と測定	3	87.0	77.5	78.5
	図形	3	86.1	81.2	81.3
	数量関係	3	72.2	65.2	64.2
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	0			
	数量や図形についての表現・処理	12	82.2	77.6	77.7
	数量や図形についての知識・理解	6	85.6	81.6	80.8
問題形式	選択式	5	86.7	80.2	76.7
	短答式	13	82.1	78.4	79.5
	記述式	0			

※1つの設問が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

(2)算数B(設問数14問)

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			本校	栃木県	全国
学習指導要領の領域	数と計算	6	51.4	54.0	55.8
	量と測定	6	56.0	58.1	59.9
	図形	4	52.8	55.1	56.4
	数量関係	4	56.3	55.8	56.8
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	10	40.6	44.3	46.1
	数量や図形についての表現・処理	4	77.1	75.8	76.5
	数量や図形についての知識・理解	0			
問題形式	選択式	2	75.0	68.4	68.9
	短答式	7	61.1	61.9	63.7
	記述式	5	27.2	35.2	36.8

※1つの設問が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合があります。

【数と計算】

- A 領域の平均正答率は84.9%で県や全国の平均正答率を1～2ポイント上回っている。
- B 領域の平均正答率は51.4%で県や全国の平均正答率より3～4ポイント下回る。
- A 基礎的な計算問題の正答率が特に高く、繰り上がりのある加法の計算や同分母の分数の減法に関しては、正答率が100%であった。基礎計算は大変によく身に付いている。
- A 領域の中で最も正答率が低かったものは数直線上から1万より大きい数字を読み取る設問で、県や全国の前正答率を4～9ポイント近く下回る結果となった。
- B 整数と小数の加法を用いて、重さを求める問題に関しては、正答率が91.7%と高く、県や全国の前正答率を上回っている。
- B 情報を整理選択し、筋道を立てて考え、示された判断が正しい理由を記述する設問の正答率が19.4%と県や全国の前正答率を大きく下回る結果となった。

【量と測定】

- A 領域の平均正答率は、87.0%で県や全国の平均正答率を9～10ポイント上回る。
- B 領域の平均正答率は、56.0%で県や全国の平均を2～3ポイント下回る。
- A 長さや身に付けているかに関する設問の正答率は100%と特に高く、県や全国の前正答率を大きく上回る。
- A 分度器の目盛りを読む設問や三角形の面積を求める設問についても県や全国を大きく上回る正答率となっている。
- B 全国的に正答率が低い傾向（30～40%台）にある3つの実験を基に、黒い球の重さの範囲を書き、その範囲に当てはまる重さを選ぶ設問や目的の時刻までに着くバスの発車予定時刻を時刻表から選び、その時刻を書く設問については、本校も正答率が低く、数学的な考え方が十分に身に付いていない傾向が見られる。

【図形】

- A 領域の正答率は86.1%で県や全国の平均正答率を約5ポイント上回っている。
- B 領域の正答率は52.8%で県や全国の平均正答率を3～4ポイント下回る。
- A 長方形や直角三角形の定義や性質に理解をみる設問の正答率が97.2%と特に高く、県や全国の前正答率を14ポイントも上回る結果となった。
- A 四角形の4つの角の大きさの和の求め方をみる設問では、県や全国の前正答率を1ポイントほど下回っている。
- B 示された部分の長さを直接測らなくても調べられる理由を図形の性質を基に考える設問では、県や全国の前正答率を上回る。
- B 示された解決方法を理解し、見方を変えた別の解決方法を考え、それを記述する設問の正答率が特に低く、県（28.2%）や全国（30.4%）の前正答率を大きく下回った。

【数量関係】

- A 領域の平均正答率は72.2%で県や全国の平均正答率を7～8ポイント上回る。
- B 領域の平均正答率は56.3%で県や全国の平均正答率とほぼ同じレベルという結果になった。
- A 資料を2つの観点から分類整理し、表を用いて表す設問では、正答率が83.3%と高く、県や全国の前正答率を12～15ポイントも上回る結果となった。
- B 基準量と比較量を基にして、割合の大小を判断し、その理由を記述する設問では、正答率が8.3%と特に低かった。県（16.1%）や全国（17.7%）の前正答率を下回っただけでなく、無回答率が13.9%と県や全国の前2倍近い割合となっていた。記述式でさらに数学的な考え方を問われるタイプの問題が苦手であることが分かる。
- B 棒グラフを読んだり、グラフの特徴を基に、数量の変化の様子をとらえたりする設問の平均正答率は県や全国の前正答率を上回る。

【その他】

- B 問題形式別にみると記述式の平均正答率が27.2%、選択式（75.0%）や短答式（61.1%）に比べて大きく下回り、自分の考えを説明することに課題がある。

《算数に関する質問紙調査の状況》

【児童質問紙】

- 5割以上の児童が「算数の勉強が好き」と答えるとともに、8割以上の児童が「算数の勉強が大切だ」と答えている。
- 「算数の授業の内容が分かる」「算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思う」「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないかを考える」では、肯定的に考える児童の割合（8割前後）が多い。
- 「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」では、肯定的に考える児童の割合（9割前後）が県や全国と比較して高い傾向が見られる。
- 算数A・Bともに解答時間が足りなかったと答える児童の割合が県や全国と比較して低かった。

《算数における指導の工夫・改善の方向性》

【数と計算】

- ・計算力テストなどを利用して、加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする能力の向上を図る。
- ・筆算における繰り上がりや繰り下がり、分数の計算における通分や約分などの細かい部分でのミスが減るように計算の技能の向上を図る。
- ・小数や分数の計算においては、数直線や図などを用いて分かりやすく示しながら具体的に説明し繰り返し類似問題を解かせるなどし、習熟を図る。

【量と測定】

- ・面積の学習においては、多様な面積の求め方を考える時間を確保するとともに、図形と式から面積の求め方を読み取るような学習を取り入れることで数学的な考え方を鍛え、身に付けさせる。
- ・実験を基に筋道を立てて考え、重さ等の範囲を記述し、当てはまる重さ等を考えたり、与えられた条件に合う時刻を筋道を立てて考え、時刻表から選択したりするような問題を多く取り入れながら、「筋道を立てて考える」能力（数学的な考え方）の向上を図る。
- ・あらかじめ面積を提示し、その面積になるように長方形の板を敷き詰めての辺の長さを考えられるような学習を多く取り入れる。

【図形】

- ・長方形の縦の長さを使った円の半径（長方形の紙に書かれた円）の求め方を基にして、横の長さを使った求め方を考える等の見方や目の付け所を変えながら考えていくような思考力が高まる活動や問題を多く取り入れていく。

【数量関係】

- ・基準量と割合の2つによって比較量が決まることを理解できるようにするために、具体的な場面を示しながら考えさせるようにする。
- ・グラフが何を表しているのかを具体的に理解できるようにするために、グラフから読み取れることを自分の言葉で表現させるようにする。また、それぞれが読み取ったことをグループなどで十分に話し合うような活動をこれまで以上に取り入れて、理解が深まるようにする。

【その他】

- ・それぞれの課題解決の過程や根拠を発表し合う場を設け、共通点や相違点に目を向けさせるようにするとともに、話し合いの場を多く取り入れる。
- ・ジオボードや模型、デジタル教材を活用したり、半具体物の操作を取り入れたりし、児童の理解を深めさせるとともに、個人差に対応する。
- ・選択式や短答式の問題ばかりではなく、記述式の問題にもできるだけ取り組ませるようにする。

【質問紙調査】

児童質問紙

《主な状況》

○「朝食を毎日とる」「学校に持っていく物の確認」「身の自立」「起きる時刻」「寝る時刻」などの項目への解答状況から、ほとんどの児童が規則正しい生活をおくっていることがうかがえる。

●家庭での勉強時間の確保やテレビを見たりゲームをしたりする時間のルールなどの点については、県や全国のデータに比べややよい傾向ではあるが、個人差が大きいことも事実である。

○携帯電話を所持しない児童の割合が高く、パソコンのゲームやインターネット、メールなどに費やす時間は少ない。

●家庭学習の時間については、学校や市が呼びかけている「70分間」前後を意識している児童が多いが、目安の時間に達していない児童が数人いる。

○「物事を最後までやり遂げた達成感」を味わっている児童の割合が高く（肯定率100%）、難しいことに失敗を恐れず挑戦する意欲も高い。

○将来への夢や目標を持ち（肯定率100%）、自分のよさを自覚している児童が多い。

●家や図書館での読書時間が確保されている児童とそうではない児童との差が大きい。

○家族と朝食や夕食をとにもする割合が高く、家の人と学校の出来事についての会話も多くしている。

○家の手伝いをする児童の割合が高い。

●ほとんどの児童が家で学校の宿題をしているが予習・復習についてはあまりしていない傾向にあり、きちんとやる児童とそうではない児童との差が徐々に大きくなってきている。

○学習塾に通っていない児童が半数を超える本校であるが、家で苦手の勉強をしていると肯定的に答えた児童の割合は50%を超え、県や全国の割合を上回っている。前向きに家庭学習に取り組む児童が増えてきている。

○学校で友達に会うことが楽しい（肯定率100%）、好きな授業があると答えた児童の割合が高い。

○新聞やテレビのニュースに関心をもつとともに世の中の出来事に関心がある児童の割合が高い。

○自分が住んでいる地域の歴史や自然に関心をもち、地域の行事への参加も熱心な傾向にあり自分の住んでいる地域が好きと答える児童の割合が高く、近所の人への挨拶もしている児童が多い。地域のよさがこのデータに表れている。

○学校の決まりを守ったり友達との約束を守ったりする意識が高く、人が困っているときは進んで助けることができる答えた児童が多い。

○近所の人に会ったときはあいさつをしていると答えた児童が9割を超え、県や全国の割合を大きく上回っている。

○いじめはいけないことだという認識をもち、人の気持ちが分かる人間になりたい（肯定率100%）、人の役に立つ人間になりたい（肯定率100%）などという前向きな願いをもつ児童が多い。

○総合的な学習の時間の授業は約8割の児童が好きだと肯定的な回答をした。さらに、普段の生活や社会に出たときに役立つと感じている児童の割合が高い。